

# 少林寺拳法



防衛大学校少林寺拳法部

平成12年度 部誌・OB会報 NO. 27

## 目 次

### 部 誌

- 1 部長挨拶  
化学教室 教授 菅野 等
- 2 学生寄稿  
45期 主将 八木 新  
副将 澤水 隆一  
46期 主将 菊池 裕紀  
副将 阪井 旭  
47期 田中 勝茂  
本田 一郎  
48期 エルデネ ハタン  
対比地 貴行
- 3 平成12年度活動成果
- 4 各種大会個人成績
- 5 平成13年度年間活動計画
- 6 平成12年度 部員名簿
- 7 少林寺拳法部第46期政権編成表

### 奥平会報

- 1 巻頭言  
奥平会会長 14期 中原 勇
- 2 奥平会会則の改正について
- 3 期連絡網
- 4 平成12年度奥平会活動概要
- 5 平成13年度奥平会活動予定
- 6 連絡事項
- 7 今後の活動資金について
- 8 奥平会名誉会員名簿  
別紙第1「平成12年度奥平会活動成果報告」  
別紙第2「平成12年度奥平会決算報告書」  
別紙第3「平成13年度奥平会活動計画」  
付録 「奥平会員名簿」

「新世紀を迎えて」

部長 菅野 等

合掌

21世紀が幕をあげました。不思議なもので、何事も新しく始めると、気持ちも改まり新しい希望と元気も出てきて、夢に向かって頑張ろうという気持ちになるものです。少し大袈裟かもしれませんが、21世紀が人類にとって、発展と希望に満ちた良い世紀になって欲しいと願わずにはおれませんが、OB諸兄・姉は新世紀を迎えてどのような感慨と抱負をお持ちでしょうか。

さて、防衛大少林寺拳法部の平成12年度を振り返ってみると、4年生がよく少人数で乗り切ってくれたなと思います。4年生がたったの4人（八木・澤水・堤・津森君）で、下級生の指導を含めて部の活動を全部取り仕切らねばならなかったのですから、かなり大変だった事と思います。このことを考慮すると、関東学生大会や全日本大会の成績も例年と比較して、少しも見劣りするものではなく、むしろよく頑張ってくれたと高く評価したいです。また、米山監督を先頭とするOB諸兄・姉の指導とご支援のお蔭であると感謝しております。

平成13年度は菊地君を主将として4年生が7人になりますので、かなり状況は良くなります。何事にも浮き沈みがありますが、我が拳法部も部員数の減少によりやく歯止めがかかり増加に転じたので、21世紀に入り、いよいよ再生と隆盛に向けたのろしを上げる事のできる状態になりつつある様な気がします。

田村・神田・頼富師範も熱心にご指導して下さい、学生も先輩に負けないくらいよく稽古しておりますので、OB諸兄・姉におかれましても、これまで以上にご支援とご指導して下さいる様お願い申し上げます。

結手

## 「45期政権を終えて」

45期主将 八木 新

合掌

時が経つのは早いもので、ついこの間入校したような防大生活も、残すところ後わずかとなった。振りかえれば、ここ小原台での生活は、少林寺拳法部そのものであったといっても過言ではないだろう。それは、たった4人の同期との苦難の時であったが、楽しいものでもあった。

残念ながら、45期は日本一をとることが出来なかったが、後輩に伝えるべきことは伝えたと自負している。46期政権以下は、是非日本一を目指し、かつ、「楽しく厳しい」活気のある部をつくっていってくれ。いつまでも、少林寺拳法部こそが防大の「最後の砦」であって欲しい。

最後になりましたが、部の運営にあたり多大な指導・支援をして下さった師範の先生方、部長、監督、顧問、OBの方々に厚くお礼申し上げます。また、45期の皆、後輩、特に47期一同、楽しかった。ありがとう。

結手

## 「4年間を振り返って」

45期副将 澤水 隆一

合掌

卒業まで残りわずかとなった今、4年間を振り返ってみると少林寺拳法の思い出ばかりです。1学年時、共に汗を流し、厳しい試練を乗り越えてきた同期の顔、2学年時、大会で味わった喜び、怪我による挫折、3学年時、大会で負けた悔しさ、そして4学年時、政権担当中の苦悩、政権を終えての達成感等々……とても貴重な経験をさせていただきました。

後輩諸君、今まで以上に自発的に、苦しさにも目を輝かせて耐え、互いに刺激しあって練習してってください。流した汗と涙の分だけ、最後に味わえる達成感も大きくなると思います。

最後になりましたが、御世話になった師範、監督、顧問、OBの皆様、御指導御鞭撻のほどを承り、心よりお礼申し上げます。そして45期の皆、4年間本当に有り難う。

結手

「新政権を迎えるにあたって」

46期主将 菊池 裕紀

合掌

早いもので私が少林寺拳法部に入部して2年が過ぎ、政権を任される立場となりました。私が直接に教わった先輩方は「今は分からなくても、いつか分かる日が来る」とおっしゃって、多くのことを私に指導して下さいました。今なら全てが分かるまでにはいかずとも、いくつも私の心に留まっている言葉があります。特に「少林寺を単なる技として捉えるのでなく、精神的な面を見てほしい」という言葉は、わたしが下級生へと一番伝えたい事となっています。幹部自衛官となっていく我々は、己を整える事こそが、もっとも求められています。身体と同じくらい心を鍛えることが、自分を含めて部員一同できることを目標に頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、師範、部長をはじめ監督、顧問、OBの方々の御支援、御指導に深く感謝して結びとさせていただきます。これからも変わらぬ御支援、御指導をよろしく御願います。

結手

「防大少林寺拳法部について」

46期副将 阪井 旭

合掌

時が経つの早いもので、私達46期も政権になりました。思い起こせば、1年の夏合宿時に倒れて生死を彷徨ったことが昨日のことのようです。そんな私が無事政権になることができたのもやはり少林寺拳法のおかげだと思います。私達46期は残念ながら日本一になることはできませんでした。しかしこれをバネに47期には是非とも日本一を奪回できるように、日々の練習に力を入れていきます。

また今年の新入生である48期は人数も多く、皆やる気に満ちた者ばかりなので少林寺拳法部がかつての栄光を取り戻す日は近いと思います。その時が来るよう46期一丸となって日々研鑽していきたいと思います。

OBの皆様方は今後とも46期に対しご指導ご鞭撻のほどをお願い致します。

結手

「強さとは何か」

47期 本田 一郎

合掌

「強さ」という価値は大きく二つに区別できると思います。一つは「肉体的強さ」、もう一つは「精神的強さ」です。肉体的強さは戦闘という行為の中に誰もが見て取ることの出来る強さであり、外敵に対する優位性の事で違いはないでしょう。

では精神的強さとはというとやや漠然としていますが、一步踏み込み具体的に想像してみますと、肉体的限界に至っても行為を続ける人間の姿や、肉体的衝動に駆られても行為を抑制する人間の姿が思い浮かぶ事があろうかと思えます。つまり、肉体的行為を目的に向け制御する、自分自身に対する優位性、それが精神的強さだと言えるのではないのでしょうか。

また、精神的強さは肉体的強さと分離したものでなく、むしろそれを根底で支えるものでなければなりません。精神的強さの統制を受けない肉体的行為が獣のそれに等しくなる事は容易に想像がつくと思えます。

故に、少林寺拳法を通じて育成された精神的強さを前提とした肉体的強さ、換言すれば自分に克つ強さに支えられ、日々研鑽された肉体的強さこそが、人間としての真の強さだと言えらると思えます。

結手

「桜下の誓い」

47期 田中 勝茂

合掌

「いち・いち・いちにー！」

授業を終えた学生たちが自分たちの宿舎への帰路につく頃、いつもの様にこの掛声が防大中に響き渡ります。その存在は誰もが一目を置きこの無謀だとも思われる若人たちの行動を見送るばかり。

我々はその言動ゆえに時には奇怪なものを見るような目で見られる事もあります。しかし、開祖の教えに従い、日々己を磨き、助け合い、互いに成長していく姿は、非難よりも尊敬の眼差しで見られていることの方が多いのです。桜の樹に緑が目立ち始める頃、志の高い新入生がやってきます。その瞬間から我々は我々であることに誇りを持ち、その意志を守り続けなければなりません。

桜の樹だけは悠久の時間を刻みながら我々を見守り続けています。我々を祝福するように見事な華を咲かせる春が今年もまたやって来るのです。

結手

「燃えよ 拳」

48期 対比地 貴行

合掌

私は今、少林寺拳法の副読本に書いてある活人拳を目標として、日々厳しい稽古に励んでいます。特に少林寺拳法部の中で最も腕力の無い私にとって、始まりの鉄棒や拳立ては憂鬱です。でも入部前は懸垂が4回しかできなかったのに、今は14回できるようになりました。この感動を胸にもっともっと鉄棒を愛し、路上での拳立てを楽しみたいと思います。そして世界一の拳にしたいと思います。 燃えよ 拳！

結手

「少林寺拳法と私」

48期 エルデネ ハタン

合掌

皆さん今日は、寒い中お元気でしょうか？ここで、私は少林寺拳法と私というテーマで話させて頂きたいと思います。何も出来ない私をここまで育ててくれて皆さん本当にありがとうございます。

一年前に私がどんな部活に入るかとなやんでいました。その時運命的な出会いがあり、お風呂で話したのです。日本語がほとんど出来ない私と一所懸命話しているその大きな人を見て私がこの人はすごいと思いました。

さっそく次の日に私が少林寺拳法を見に行きました。そして皆の練習、助け合って走っている姿、気合、皆の一つになっているその団結などを見て心魅かれ、こんな部活があったんだと感動しました。ちゃんとしている上級生、上下関係を守っている下級生達を見て自分自身をここに在るべきだと思いました。

ところで、皆さん友達から、同期から「お前は何で少林寺拳法を選んだの？きつくない？」と聞かれたことがないでしょうか？そう、私も良く聞かれます。その時私はいろいろ答えます。例えば：肉体的だけではなくて精神的に強くなりたくて。少林寺拳法の服装が格好良くて。日本の文化を知りたくて。防大のきついクラブの一つであるとかいろいろあります。しかし私には、人にあまりに言わない一つの目標があります。それは、簡単です。私は、男を目指したのです。皆のような上級生になりたかったのです。自分が死んでいても友達を助ける人になりたかったのです。この思いを心の中に持ちながら皆と一緒に汗をかいて練習をしてきました。寒い朝の寒稽古、茶帯の練習、どんなにがんばって走ってもなかなか終わらないポンド階段、いろいろ大変なことがあります。どう考えても、この練習を乗り越えるには自分ひとりの力で出来るものではないです。私の少林寺拳法とのつながりはこのぐらいです。これからも皆と盛り上がっていきたいと思います。皆さんよろしく願います。乱筆御免下さい。

結手

## 平成 1 2 年度活動成果

期 間	行 事	場 所	大会等成果	
5月4日	関東学生大会	日本武道館	男女段外 団体演武	優秀 優秀
5月27日	新入生歓迎行事	防衛大学校	入部者	15名
6月18日	慶応・早稲田大学との 合同練習	防衛大学校		
8月24日 ～28日	夏合宿	防衛大学校		
9月10日	神奈川県大会	厚木市スポーツセン ター	団体演武	最優秀
10月8日	横須賀三浦地区大会	鎌倉	男子段外 男子初二段 女子初二段	最優秀 優良 優秀
10月15日	全日本学生大会	日本武道館	男子段外 男子二段 団体演武	敢闘 優良 優良
11月5日	全国大会	日本武道館	団体演武披露	
11月上旬	政権交代	防衛大学校		
11月23日	第7回関東学生OB現 役懇親会	中央学院大学		
11月26日	全自衛隊大会	武山駐屯地	一般初・二段 一般段外 一般単独演武 団体演武	最優秀 優秀 最優秀 優秀 最優秀
11月15日 ～19日	寒稽古	防衛大学校		
2月17日	少林寺拳法部OB杯	防衛大学校		
2月17日	納会	横須賀平安閣		
3月26日 ～28日	春合宿	防衛大学校		



## 各種大会個人成績

### 関東学生連盟大会(平成 12 年 5 月 4 日：日本武道館)

男子段外の部	決勝進出	323(2)樋口智志・433(3)半澤武久 213(2)久郷一雄・332(2)田中勝茂
男女段外の部	優秀	142(2)村上明子・223(2)谷口裕昭
団体演武の部	優秀	143(4)堤允良・222(4)津森聡 443(4)澤水隆一・132(3)菊池裕紀 133(3)高木聰・231(3)阪井旭 232(3)伊藤和典・243(2)村重亮

### 神奈川県大会(平成 12 年 9 月 10 日：厚木市スポーツセンター)

団体演武の部	最優秀	143(4)堤允良・222(4)八木新 443(4)澤水隆一・132(3)菊池裕紀 133(3)高木聰・231(3)阪井旭 232(3)伊藤和典・243(2)村重亮
--------	-----	---

### 横須賀市民大会(平成 12 年 10 月 8 日：鎌倉)

男子段外の部	最優秀	332(1)廣神敏・433(1)藤原宏匡
男子初二段の部	優良	323(2)樋口智志・241(1)岩田伸太郎
女子初二段の部	優秀	431(3)高橋牧子・142(2)村上明子

### 全日本学生大会(平成 12 年 10 月 15 日：日本武道館)

男女段外の部	決勝進出	241(1)安藤由佳・443(3)対比地貴行
男子初段の部	決勝進出	223(2)谷口裕昭・431(1)本田一郎
女子初段の部	決勝進出	431(3)高橋牧子・142(2)村上明子
男子段外の部	敢闘	331(1)エルデネ・443(1)平野富昭
男子二段の部	優良	222(4)八木新・412(2)矢野健一
団体演武の部	優良	143(4)堤允良・222(4)八木新 443(4)澤水隆一・132(3)菊池裕紀 133(3)高木聰・231(3)阪井旭 232(3)伊藤和典・243(2)村重亮

### 全国大会(平成 12 年 11 月 5 日：日本武道館)

団体演武の部	演武披露	全日本学生大会に同じ
--------	------	------------

第27回全自衛隊大会（平成12年11月26日：武山駐屯地）

単演段外の部	優秀	443(1)対比地貴行
男子段外の部	最優秀	243(1)小林猛・413(1)飯澤直人
男子初二段の部	最優秀	222(4)八木新・412(2)矢野健一
	優秀	132(3)菊池裕紀・231(3)阪井旭
団体演武の部	最優秀賞	232(3)伊藤和典・213(2)久郷一雄
		223(2)谷口裕昭・323(2)樋口智志
		331(2)溝上雅央・412(2)矢野健一
		431(2)本田一郎・433(2)半澤武久

## 平成 1 3 年度年間活動計画

期 間	行 事	場 所	備 考
4 月中	<b>全力勧誘期間</b>		目標：22名
5 月 4 日	関東学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
5 月中旬	新入生歓迎行事	防衛大学校	
6 月中旬	慶応・早稲田大学との合同稽古	防衛大学校 総体	
	昇段審査	藤沢高校	2・3・4年がそれぞれ受験
7 月中旬	神奈川県大会（第1部）	未 定	全国大会選考会出場資格獲得
8 月上旬	夏合宿（第1部）	未 定	
8 月下旬	夏合宿（第2部）	本部道場	主として次期政権が参加
時期未定	全自衛隊大会	未 定	
9 月上旬	神奈川県大会（第2部）	未 定	全国大会選考会を兼ねる
10 月上旬	横須賀・三浦地区大会	未 定	
11 月 4 日	全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
11 月中	全国大会	日本武道館	
11 月上旬	開校祭		演武の披露
	政権交代		
11 月下旬	第7回関東学生OB現役懇親会	未 定	
1 月中旬	寒稽古	防衛大学校	
2 月中旬	OB杯演武大会・納会 OB総会	防衛大学校	
3 月下旬	春合宿	防衛大学校	

\*尚、各月一回を基準に師範日を予定

# 平成 12 年度 部員名簿

(平成 13 年 1 月 1 日現在)

期別	小隊	専攻	要員	氏名
4 5 期	1 4 3	機シ	海	堤 允良
	2 2 2	国関	海	津森 聡
	2 2 2	〃	陸	八木 新
	4 3 1	電子	陸	八尋 幸一 *
	4 4 3	土木	陸	澤水 隆一
4 6 期	1 3 2	数物	陸	菊池 裕紀
	1 3 3	国関	陸	高木 聡
	1 4 3	〃	空	山本 剛嗣
	2 3 1	管理	陸	阪井 旭
	2 3 2	通信	海	伊藤 和典
4 7 期	4 3 1	機工	陸	高橋 牧子
	1 2 1	国関	陸	関家 健一郎
	1 4 3	精密	陸	松尾 崇嗣
	2 1 3	機工	陸	久郷 一雄
	2 2 3	材物	海	谷口 裕昭
	2 4 3	応物	陸	村重 亮 *
	3 2 3	電子	陸	樋口 智志
	3 3 1	航宇	空	溝上 雅央
	3 3 2	土木	陸	田中 勝茂
	4 1 2	応化	陸	矢野 健一
	4 3 1	管理	陸	本田 一郎
4 3 3	応化	陸	半澤 武久	
4 8 期	1 1 1	理工		郡山 伸衛
	1 1 2	〃		未守 正作
	1 4 3	〃		迫田 健太
	2 4 1	〃		安藤 由佳
	2 4 1	人文		岩田 伸太郎
	2 4 3	〃		小林 猛
	3 3 1	〃		エルデネ ハタン
	3 3 2	〃		廣神 敏
	4 1 3	〃		飯澤 直人
	4 3 3	人文		砂川 広樹
	4 3 3	理工		藤原 宏匡
	4 4 3	人文		対比地 貴行
	4 4 3	理工		平野 富昭

\*印：留年

## 少林寺拳法部第46期政権編成

役職	氏名	所属	要員・専攻
主将	菊池 裕紀	1 3 2	陸上・数物
副将	阪井 旭	2 3 1	陸上・管理
統制長	村重 亮	2 4 3	陸上・応物
道場長	高木 聰	1 3 3	陸上・国関
主務	山本 剛嗣		
会計	高橋 牧子		
安全	伊藤 和典		
訓練係	村重 亮		
3年係	村重 亮		
2年係	高木 聰		
2年係補佐	阪井 旭		
1年係	高橋 牧子		
師範係	〃		
本山係	村重 亮		
OB係	高木 聰		

中華民國二十九年

五月

二十日

星期一

第XXXX號

每份洋X元

每月洋XX元

每季洋XXX元

每半年洋XXXX元

每年洋XXXX元

廣告費另議

發行所：XXXX

地址：XXXX

電話：XXXX

電報掛號：XXXX

郵政掛號：XXXX

零售每份洋X元

本報地址：XXXX

電話：XXXX

電報掛號：XXXX

郵政掛號：XXXX

零售每份洋X元

本報地址：XXXX

電話：XXXX

電報掛號：XXXX

郵政掛號：XXXX

零售每份洋X元

本報地址：XXXX

電話：XXXX

電報掛號：XXXX

郵政掛號：XXXX

# 報 會 平 奧

## 巻 頭 言

合掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私、この度、奥平会の会長を拝命する事となりました14期の中原です。2度目の奥平会会長です。1度目が陸幕及び内局勤務をしておりました昭和63年前後の時期です。この頃に、初代会長を務めて頂きました10期の三井先輩から、第2代の会長を是非ということで、上番させて頂きました。

このときから、防大又は檜町勤務の会員から会長を選出することとし、実質的には檜町勤務の先任者クラスから選出してきた訳です。

このため、会長の任期は、会長が檜町勤務をしている約2年間で、また、転出の内示を受けてから、僅かな期間内に後任の会長を選出しなくてはならず、歴代の会長上番者の悩みになっていたものと思料しております。

このような会長選出の現状に鑑み、この度、会長は市ヶ谷勤務者に限定せず複数年継続して会長に上番して貰うように改正し、会長が東京近辺に居住していないケースを考慮して会長代理が可能な副会長2人制をとることとなりました。このような事情により、道東勤務の私が暫し会長職を拝命させて頂きますが、防大勤務の会員や市ヶ谷勤務の副会長他の会員などの皆様との連携を取りながら、新方式が効果的に機能すべく努力する所存です。皆様方のご支援ご協力の程を何卒宜しくお願い申し上げます。

防大少林寺が奥平大隊指導官（当時）のご努力と熱意で発足してすでに36年余りが経過し、防大少林寺は数々の名誉ある輝かしい成果を収めて来ました。これもひとえに、防大時代に人文館屋上やプール横などの芝生の上を道場として技を磨き心を鍛えた創設初期の諸先輩の築き上げた伝統とこれを受け継ぎ新たな伝統を作り上げた後輩諸兄の努力の賜物です。諸先輩と後輩諸兄に心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、奥平会の目的である「会員相互の親睦」と「防大少林寺拳法部の発展向上」に向けて、会員の皆様のご支援ご協力を賜りながら、微力では御座いますが努力させて頂きます。

会員並びにご家族皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

結手

防衛大学校少林寺拳法部奥平会会長

中原 勇

## 奥平会会則の改正について

若葉の鮮やかな季節、全国各地の会員の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、標記につきまして、昨年度、会長選出に関し、陸海空の持ち回りで行う旨の会則改正を実施したところでありますが、今般、会長の選考要領につきまして、防大及び市ヶ谷駐屯地近傍から選考するという枠をなくすことにより、全国各地で勤務される会長適任者への会長就任ができる如く、会則の見直しを検討いたしました。また、この際、会長の選考要領の明記や地区連絡網の廃止等、現在の活動実態に合わせた内容を検討するとともに、会長枠拡大に伴う副会長増設等の役員の見直しを行いました。

これらの検討案につきまして、4月23日（月）に、市ヶ谷駐屯地において総会に諮り、その承認を得ましたことを会員の皆様に、本紙面を借りまして御報告いたします。

新会長には、14期（陸）中原 勇先輩が就任されます。

最後に、会長就任間におけます会員皆様の御協力に感謝を申し上げますとともに、引き続き、新会長を核心といたしまして、本会に対する御理解と御協力をお願いするものであります。

市ヶ谷駐屯地 副会長 鈴木 陽



# 防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則

改正 平成13年4月23日

## (名称組織)

第1条 本会は、防衛大学校少林寺拳法部奥平会（以下「奥平会」という。）と称し、防衛大学校少林寺拳法部（以下「少林寺拳法部」という。）に卒業時所属していた者及び一時所属していた卒業生で入会を希望する者をもって組織する。

## (目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図ること、少林寺拳法部の発展向上に資することを目的とする。

## (事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員相互の融和団結の促進
  - ア 総会の開催
  - イ 部隊等における支部の設立と活動に対する支援
  - ウ 会員の慶弔に関すること
    - (ア) 結婚 . . . 祝電
    - (イ) 死亡 . . . 花輪、弔電
- (3) 会員の修業の便を図ること
- (4) 少林寺拳法部への支援
  - ア 合宿
  - イ 関東、全日本、その他の大会
  - ウ OB杯大会
- (5) 学生OB連合会及び他大学OB会との連携・交流
- (6) その他、本会の目的を達成するため会長が必要と認める事項

## (経費)

第4条 本会の経費は、会員より徴収する会費及び寄付等の支援金によるものとする。

## (会費)

第5条 20期以前の会員は一律5000円、21期以降の会員は卒業時における学生手当の2分の1（1000円未満切捨て）を終身会費として納入するものとする。なお、一旦納入した会費は返還しない。

## (特別会費)

第6条 前条に定めるほか、特別の出費を要するときには、総会の承認を得て会員から特別会費を徴収する。

## (本部)

第7条 本会の本部は、防衛大学校（少林寺拳法部）内に置く。

(名誉会員)

第8条 会長は、次に掲げる者を総会に諮り名誉会員にすることができる。

- (1) 防衛大学長
- (2) 少林寺拳法部の部長、師範、顧問及びその経験者
- (3) その他、少林寺拳法部の発展に功績のあった者

(役員)

第9条 本会の役員は、会員のうちから選出する。役員任期は1年とし、再任を妨げない。

2 本会に次の役員を置く。

- |            |        |
|------------|--------|
| (1) 会長     | 1名     |
| (2) 副会長    | 2名     |
| (3) 幹事     | 本校在職会員 |
| (4) 会計監査委員 | 1名     |

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、名誉会員との連絡調整にあたる。

- 2 会長は、会員の中から副会長、幹事、会計監査委員を任命する。
- 3 会長は、陸海空自衛官会員の持ち回りで5年任期とし、次期会長の任期に当たった当該自衛官会員の先任者等の推薦によって選考するものとし、当該期会長任期満了までに総会の承認を得るものとする。

(副会長)

第11条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき之を代行する。

- 2 会長は、防大及び市ヶ谷駐屯地の会員の中から、それぞれ適任と思われる者を副会長に任命する。
- 3 状況により、会長は副会長を置かないことができる。

(幹事)

第12条 幹事は、会長、副会長を補佐し、会務を処理する。

- 2 会長は、防大に勤務する会員を総員幹事に任命する。

(会計監査委員)

第13条 会計監査委員は、年度末及び臨時に会の会計を監査し、会長及び会員に報告する。

- 2 会計監査委員は、防大の幹事以外の会員の中から会長が任命する。

(運営)

第14条 本会は、総会の決議に基づいて運営する。但し、急を要する事項、若しくは軽易な事項は、会長が役員会に諮って決することができる。

(総会)

第15条 総会は、原則として年1回会長が召集する。但し、必要と認めるときは、臨時に召集することができる。

- 2 会長は、総会の召集にあたり、副会長に委任することができる。
- 3 総会は、会員15名をもって成立する。
- 4 総会の議長は、会長がこれに充たるものとする。

5 総会の議事は、出席した会員のうち過半数以上の賛同により、成立するものとする。

#### (会務)

第16条 本会の会務を円満に処理するため、会長は幹事の中から書記4名を選任する。

2 書記は、総括、庶務、会計及び広報に分掌して処理する。

3 総括担当書記は、会務運営を企画し、会務全般を総括する。

(1) 会長等と密接に連絡を取り、会長の意向を会務全般に反映する。

(2) 年度の活動成果報告を作成して、総会に報告する。

(3) 次年度の活動計画を作成して、総会の承認を得る。

(4) 庶務、会計及び広報担当書記の会務を統制・調整し、会務の円滑な運営を図る。

(5) 状況により、他の担当書記の会務を兼務することができる。

4 庶務担当書記は、主に庶務事項に関して会務を分掌する。

(1) 学生OB連合会、他大学OB会等のOB会組織並びに(財)少林寺拳法連盟、神奈川県少林寺拳法連盟、全自衛隊少林寺拳法連盟等の連盟組織との連携を図るとともに、必要な処置を行う。

(2) 役員名簿を作成する。

5 会計担当書記は、会費を管理し、主に会計事項に関して会務を分掌する。

(1) 会費を徴収する。

(2) 会費納入名簿を作成する。

(3) 会費未納者に対し、会費の納入を促す。

(4) 毎会計年度終了後、特別会費を徴収した場合はその都度、決算報告を作成し総会の承認を得る。

6 広報担当書記は、主に広報事項に関して会務を分掌する。

(1) 少林寺拳法部と連携して、試合日程、合宿等を会員に知らせ、会員の応援を促す等、会員に対する適宜の情報提供を図る。

(2) 少林寺拳法部と連携して、年1回会報を作成し、各担当書記が作成する会の活動計画・成果、決算報告、総会議事録、名簿及び部の状況等を会員に知らせる。

(3) 会員名簿を作成する。

#### (会計)

第17条 本会の会計年度は、1月1日に始まり12月末日をもって終わる。

2 本会所管の会費は、確実なる金融機関(防衛庁共済組合を含む)へ預け入れるものとする。

#### (会費の用途)

第18条 本会の会費は、次のことにより用途するものとする。

(1) 会報の発行

(2) 会員の慶弔に関すること

(3) 少林寺拳法部への支援

(4) 会員等によるOB会活動等への参加支援

(5) 会員の大会出場(全国大会レベル)への参加支援

(6) 会長が、副会長及び幹事等の役員に諮り、奥平会、少林寺拳法部の円滑なる運営上必要と認められた事項

#### (期連絡網)

## 期連絡網

### 1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

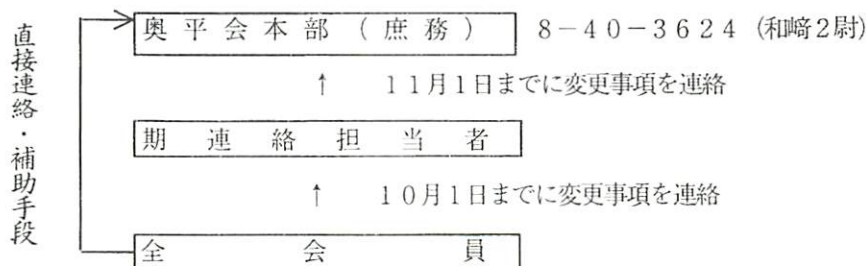
### 2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおく。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年10月1日までに同期生の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年11月1日までに奥平会本部（防大庶務）に連絡する（連絡の無い場合は、防大同窓会名簿及び昨年度のデータを用いる）。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとする。

### 3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を指名する（継続を妨げない）。

### 4 期連絡網



- 第19条 本会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理するため、各期に1名の期連絡担当者を置き、会員及び本部との間に期連絡網を整備する。
- 2 期連絡担当者の選出は、各期毎確実に連絡の取れる会員（電子メールアドレス所持者等）を選出するものとし、交代の際には速やかに本部（広報担当書記）に連絡するものとする。
  - 3 会員は、住所・所属等に変更があった場合、毎年11月1日までに同期生の期連絡担当者を通じて、変更事項を本部（広報担当書記）に連絡するものとする。
  - 4 その他、会員の慶弔に関する事項については、期連絡担当者或いは各会員が直接本部（広報担当書記）に連絡するものとする。

（退会）

第20条 会員で退会しようとする者は、会長に申し出るものとする。

（規則の改正）

第21条 本会の規則は、総会によって変更することができる。

- 2 前項の場合、出席会員の3分の2以上の賛同を得なければならない。

附則

この会則は、平成6年7月1日から施行する。

附則

この会則は、平成12年3月13日から施行する。

附則

この会則は、平成13年4月23日から施行する。

## 5 期連絡担当者

10	10A	蔵田 弘明	退職	28	28A	湯浅 悟郎	檜町
11	11A	勝野 建朗	退職	29	29A	甲斐 正人	市ヶ谷
12	12A	衛藤 利治	小郡	30	30A	福田 洋司	檜町
13	13A	高本 俊之	千僧	31	31N	迫田 浩文	市ヶ谷
14	14A	清水 重周	真駒内	32	32A	福重 毅尚	大阪
15	15A	上杉 和壽	朝霞	33	33A	富樫 勇	目黒
16	16A	富本 啓一	丘珠	34	34A	竹内 博忠	檜町
17	17A	福澤 賢	練馬	35	35A	戒田 重雄	目黒
18	18F	笠原 久	防大	36	36A	藤岡 忠生	富士
19	19A	前之園敏雄	勝田	37	37N	高取 哲朗	鹿屋
20	20A	小林 実	富士	38	38A	奇藤 浩	神町
21	21A	湖崎 隆	檜町	39	39A	中村公多朗	霞ヶ浦
22	22A	松村 利宏	川内	40	40A	上野 洋介	防大
23	23A	日高 政広	相模原	41	41A	後藤 仁志	守山
24	24F	中館 利光	入間	42	42A	古賀 信之	千僧
25	25N	内山 哲也	呉	43	43A	廣瀬 繁	北熊本
26	26F	福島 睦	百里	44	44A	渡邊 俊明	川内
27	27F	堀田 隆治	浜松				

## 平成12年度奥平会活動概要

### 1 現役部員に対する支援

夏季合宿、市民大会、全自衛隊大会、関東・全日本学生大会等に対して支援を実施致しました。細部は別紙第1の通りです。特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、OBの方々が多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。来年度につきましてもできる限り大会の予定を御連絡いたしますので、応援のほどよろしく願います。

### 2 総会の実施

平成13年2月17日に防大において、4月23日に市ヶ谷において総会を開催しました。総会では、活動報告及び会計報告を行ったほか、奥平会会則の改正及び奥平会活動の活性化について発議しました。出席いただいた会員の方々、ありがとうございました。

### 3 平成12年度会計報告

別紙第2「平成12年度奥平会決算報告書」を参照してください。

# 平成13年度奥平会活動予定

## 1 平成13年度奥平会活動内容

別紙第3「平成13年度奥平会活動計画」を参照してください。

## 2 平成13年度奥平会本部

役職	期別	氏名	連絡先
会長	14A	中原 勇	8-20-2209
副会長	17A	鈴木 陽	8-6-35060
副会長兼総括幹事	27A	米山 多佳志	8-40-3807
会計監査委員	31A	久保 敏浩	8-40-2091
会計	40A	永友 恒知	8-40-3181
庶務	41F	和崎 拓己	8-40-3624
広報	41F	松下 尚之	8-40-3383

## 連絡事項

### 1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気付きの点がございましたら期連絡担当者又は防大本部庶務まで御連絡ください。なお、今年度は期担当連絡者から連絡がほとんどはいらなかったため、各人の所属等は防大同窓会及び昨年度のデータを使用いたしました。

### 2 期連絡網について

期連絡網について別項のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等がありましたら期連絡担当者まで御連絡ください。

### 3 本部連絡先

防衛大学校理工学研究科 (境界科学)

2等空尉 和崎 拓己

専用線 8-40-3624

局線 0468-41-3811 (3624)

e-mail [g39057@cc.nda.ac.jp](mailto:g39057@cc.nda.ac.jp)

#### 4 その他

- (1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。
- (2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。また、経済的にも作業的にも防大本部員を圧迫してきた会報の作成・配布をこのホームページに代えることも検討しております。

#### 5 奥平会名簿

名誉会員名簿の後に添付いたしました。ご覧ください。



## 期連絡網

### 1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

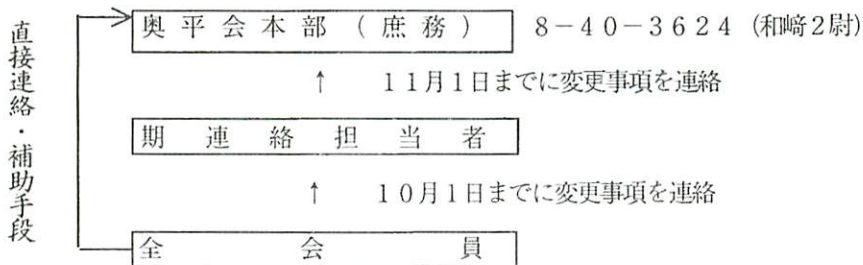
### 2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおく。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年10月1日までに同期生の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年11月1日までに奥平会本部（防大庶務）に連絡する（連絡の無い場合は、防大同窓会名簿及び昨年度のデータを用いる）。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとする。

### 3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を指名する（継続を妨げない）。

### 4 期連絡網



## 平成 13 年度 奥平会活動計画

### 1 活動内容

#### (1) 部活動支援

金銭的・人的支援を継続して実施する。この際、臨時OB会費を有効に活用する。

#### (2) 横須賀・三浦ブロック活動参加

近隣支部との合同練習を活発に実施する。

#### (3) 関東学生OB連合会活動参加

懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。

#### (4) 校内活動

OBの部活動・練習参加は定着しつつあるが、今以上にOB自身の技術向上を図る。

### 部の活動予定

別紙「平成 13 年度防大少林寺拳法部活動計画」参照

### 3 活動に当たっての重点事項

(1) 臨時OB会費徴収を卒業部員が13名以上となる平成15年度まで継続する。

(2) 新入部員獲得に重点的な支援を行う。(ダイレクトメール、金銭支援、勧誘活動)

(3) 指導に当たる4学年が7名であるので、OBが積極的に技術指導に当たる。

(4) OBの技術向上のため、武道専門学校への入学及び各種大会への参加を11年度以上に推進する。

(5) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。

(6) 計画的な人事要望を上申し、各幕と連絡しながら、防大勤務OBの増加を図る。

(7) 期連絡網が有効に機能していないので、メールアドレスを含めた連絡網を再構築し、連絡体制の効率化・迅速化を図る。

## 編集後記

合掌

新春の候、OBの皆様におかれましては、御健勝にて御過ごしの事と存じ上げます。また日頃から貴重な時間を割いての御協力・御支援ならびに御指導いただきまして、誠に有難うございます。私ども防衛大学校少林寺拳法部拳士一同は、冬の小原台の寒風に負けることなく、日々研鑽に励んでおります。

さて、ここに防衛大少林寺拳法部誌・OB会報第27号の発刊を迎えることができ、非常な喜びとするところでございます。しかしながらここ数年の問題事項である、部員数の減少に、我々46期政権も頭を悩ませております。我々46期が7名、47期が10名、48期が14名と、合計31名で活動しておりますが、来年度からは本年度干支の巳の如く、常に脱皮し進化成長し続けていく為にも、多数の部員の獲得・人的資質の充実に励んでいきたいと考えております。そのためにも、49期生の大幅な確保に力を注ぐべく、46期政権下の部員が一致団結し、全力で対処する所存でございます。そして諸先輩方の築き上げられてきた伝統と、防衛大少林寺拳法部員としての誇りを多くの後輩達に伝えていく事ができるよう、日々の稽古に励む次第でございます。

OBの皆様におかれましては、何かとご多忙とは存じますが、変わらぬ御指導、御鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

本部誌発行にあたり、御指導いただきました部長、監督、顧問、OBの方々をはじめ、投稿してくれた各学生に感謝して、編集後記と致します。

最後に、奥平会会則の改正に伴い本部誌の発行が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

結手

平成13年期 OB係

高木 聡

平成12年度 奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 平成12年度防大少林寺拳法部活動成果 別紙参照
- (2) 各種活動に対し、防大所属会員により金銭的・人的支援を実施した。
- (3) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣の会員からの激励、金銭的支援を受けた。

2 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（監督・米山）
- (2) 7月16日、9月10日：神奈川県大会協力（競技集計係）
- (3) 10月8日：横須賀市民大会協力（競技集計係）
- (4) 合同練習及びビデオ撮影・編集協力（月1回）
- (5) 2月4日：ブロック新春の集い協力及び参加

3 関東学生OB連合会活動参加

- (1) 2月17日：新春の集い参加
- (2) OB交流会参加（関東学生大会時）
- (3) 7月16日：総会参加
- (4) 11月23日：OB現役懇親会参加
- (5) 2月6日：連合会・同友会主催祝賀会参加

4 校内活動

- (1) 少林寺拳法部顧問会議（月1回基準）
- (2) 政権・OB合同会議（必要の都度）
- (3) ホームページの作成及び運営
- (4) OBの指導力の向上：  
武道専門学校入学（米山・松崎・井上・上野）  
OBの県大会・自衛隊大会・全国大会参加（松崎・井上・上野・永友・和崎）

## 平成12年奥平会決算報告書（平成12年1月1日～同年12月31日）

## 1. 収支報告

収入	
前年度繰越金	1,481,321
小計	1,481,321
44期生OB会費	305,000
OB特別会費	452,880
支援金等	10,000
利息	15,587
小計	783,467
総計	2,264,788

支出	
大会支援金	
関東学生大会	51,302
神奈川県大会	10,105
全自衛隊大会	36,000
全日本学生大会	80,000
小計	177,407
学生支援金	
春合宿支援金	28,332
夏合宿支援金	18,958
寒稽古等	46,095
小計	93,385
技術向上支援金(師範代)	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	88,120
三浦ブロック関連	16,000
部誌発行関連	25,262
OB杯・慶事等	62,785
小計	192,167
総計	662,959

## 2. 残高報告

¥1,601,829 円  
上記内容に相違ありません。

平成12年度奥平会会計係

永友 恒知

## 3. 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

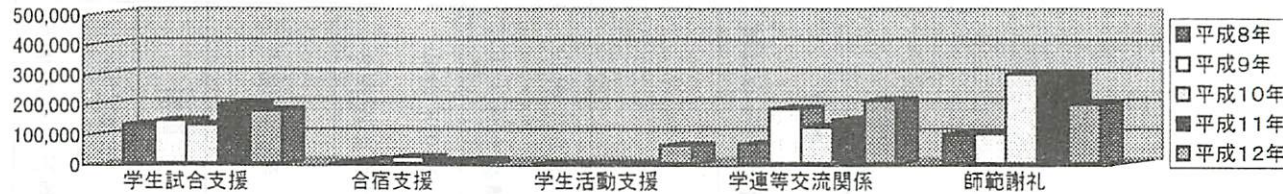
会計監査委員

坂野 亨



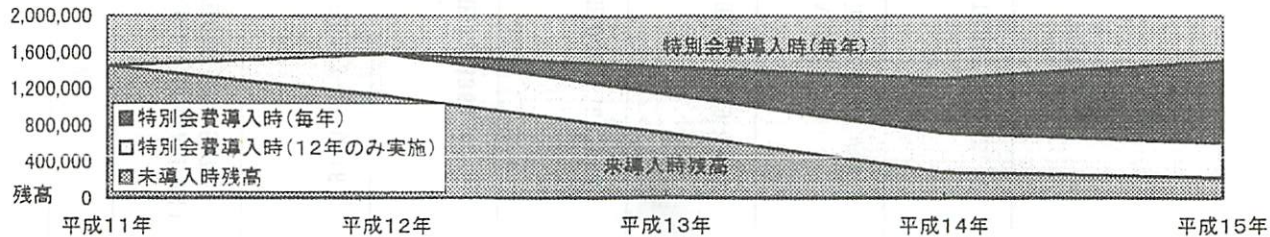
必要経費の推移

	学生試合支援	合宿支援	学生活動支援	学連等交流関係	師範謝礼	合計	備考
平成8年	130,000	0	0	65,000	100,000	295,000	
平成9年	144,000	11,792	0	183,500	100,000	439,292	
平成10年	130,000	21,703	0	123,000	300,000	574,703	
平成11年	200,000	10,000	0	148,653	300,000	658,653	全国大会出場
平成12年	177,407	11,138	62,247	212,167	200,000	662,959	全国大会出場



OB会特別会費の効果

	前年残高	必要経費	収入(OB会費)	年末時残高	特別会費	特別会費導入時残高		
						毎年導入	12年のみ実施	
平成11年	1,571,556	658,653	53000 × 10	537,000	1,449,903	1,449,903	1,449,903	
平成12年	1,481,321	662,959	53000 × 6	305,000	1,123,362	452,880	1,576,242	1,576,242
平成13年	1,148,949	700,000	53000 × 5	268,500	717,449	300,000	1,444,742	1,144,742
平成14年	717,449	700,000	53000 × 5	268,500	285,949	300,000	1,313,242	713,242
平成15年	339,649	700,000	53000 × 10	590,700	230,349	300,000	1,503,942	603,942



## 奥平会名誉会員名簿

職名	氏名	現所属及び役職	連絡先
部長	菅野 等	化学教室 教授	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東6丁目34番1-411 TEL045-786-5877
師範	田村倉蔵	正範士7段	〒187-0041 小平市美園町3-27-5 TEL0423-43-0416
師範	神田憲和	三多摩副道院長 准範士6段	〒164-0003 中野区東中野2-14-7 TEL03-3363-6275
師範	頼富英武	少年工科学校顧問 准範士6段	〒238-0315 横須賀市林5-6-11 TEL0468-56-7663
前部長	丸川武志		〒120-0046 足立区小台2-33-2 TEL03-3919-5910
顧問	有賀 敦	材料物性工学教室 講師	〒239-0814 横須賀市二葉1-55 A-202 TEL0468-44-0264
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平会名誉会長)		〒828-0044 豊前市小石原392-3 TEL0979-82-2287

## 今後の活動資金について

防大奥平会会計係 2等陸尉 永友恒知（40期）

### (1) 12年度の特別会費について

12年度から特別会費の納入についてお願いしましたが、おかげさまで、¥452,880もの会費を徴収することができました。この場を借りて篤くお礼申し上げます。

### (2) 12年度の会計について

収入		支出	
前年度繰越金	¥1,481,321	12年度会報発行費	¥25,262
OB会費（44期6名）	¥305,000	各種大会支援	¥177,407
支援金等	¥10,000	合宿支援	¥11,138
特別会費	¥452,880	学生活動支援	¥62,247
利息	¥15,587	技術向上支援	¥200,000
合計	¥2,264,788	奥平会運営及び活動費	¥186,905
		合計	¥662,959
残高（収入－支出）			¥1,601,829

12年度の会計は11年度から引き続き支出事項の見直しを行い、現在の少林寺拳法部の活動事情に合わせた支出へと改善を向けております。また、前年度会計担当者のご尽力により、今年度も昨年度とほぼ同水準の支出を維持できるものと思われます。今年度は技術向上支援金を縮小した分、新入生勧誘をはじめとする学生活動の支援に使用しました。

### (3) 残高推移の試算

今後も今年度と同様に会報発行費、備品購入費等を削減した場合の年間支出合計は約¥700,000になります。これは主要な収入源である新規OB会員の入会費（一人当たり¥53,700）の約14人分の金額です。現在の部員数は4学年：4名、3学年：6名、2学年：10名、1学年：11名であり、部員数がこの状態のまま続くと年間20万円～50万円の残高の漸減が予想されます。また、今回削減の会報印刷費（¥150,000）等は削減状態の維持が困難であり、今後も年間経費を¥700,000以内で維持することは厳しいといえます。

### (4) 対策

支出抑制の努力を継続するのは勿論のことですが、前項でも述べたようにこれ以上の活動経費の削減は極めて難しいと思われます。そのため、今年度に引き続きH13年度も特別会費の納入をお願いしたいと思います。これは、先の本総会において会則第6条を適用し、以下の通り会員から特別会費3000円を徴収することで承認された件に則っております。



## 特別会費納入の依頼について

H12年度から特別会費の納入についてお願いしましたが、皆様の御協力により¥452,880の特別会費を徴収することができました。この場を借りて篤く御礼申し上げます。

H12年度の会計も11年度に引き続き支出事項の見直しを行い、現在の少林寺拳法の活動状況に合わせた支出へと改善を続け、11年度と同様の支出に維持できることが出来ました。

しかしながら、主要な収入源である新規OB会員の入会費（一人当たり¥53,700）は、現在の部員数（4学年：4名、3学年：6名、2学年：10名、1学年：11名）では会費が年間20～50万漸減されることが予想されます。（別紙参照）

さらに、現在の支出削減で最も効果が大いなのは会報印刷代（約¥150,000）ではありますが、今後も印刷代を削減継続出来るかどうか分からないのが現状で、今後支出が増える可能性も少なからず存在します。

今後会費の減少を抑えて円滑な活動を行うためには、支出抑制の努力を継続するのは勿論のことです。しかし、これ以上の経費削減は極めて困難だと思われます。このため、H12年度に引き続き、H13年度以降も奥平会の皆様から特別会費の納入をお願いしたいと思います。これにより、会費の漸減を押さえることが出来ると見込んでおります。（別紙参照）

納入方法は、同封の振込用紙にて指定口座に振り込み下さい。  
各駐屯地・基地毎で一括して納入していただくと幸いです。

奥平会幹事

米山 秀 佳 志

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
10	A	黒野 耐	目黒	防衛研究所主任研究官
10	A	三井 光夫	目黒	防衛研究所
10	A	松島 順一	退職	R. S. C
10	A	清水 萬男	目黒	幹部学校研究部長
10	A	蔵田 弘明		安田火災海上保険(株)
10	F	出田 弘一	退職	889-1403 大東京火災宮崎サービスセンター 調査部
10	F	鈴木 勝人	御逝去	
10	N	岡崎 昭一	退職	231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原11-1-1103 三浦海岸ハイ714-1441
11	A	坂元 正昭	退職	国際デジタル通信(株)
11	A	勝野 建郎	退職	東京海上火災保険(株)
11	A	須崎 了英	健軍	西部方面総幹部
11	A	水野 照夫		東京理科大学
11	A	廣岡 征夫		廣岡事務所
11	F	上田 男作	退職	南国殖産(株)
11	F	清水 正睦	入間	中部航空方面隊司令部
11	F	田谷 俊之		札幌 北部方面総監部
11	F	藤田 尚	入間	第4補給処副処長
11	N	佐藤 正秀	退職	愛心会大隅鹿屋病院
11	N	渡辺 貞吉	退職	(株)日立アドバンスシステムズ
12	A	衛藤 利治	小郡	小郡駐屯地業務隊
12	A	新井 宏	御逝去	
12	F	田中 紘治	府中	調本府中調事
12	F	野口 昭徳	熊谷	中央航空通信群
12	N	橋田 典幸	佐伯	佐伯基地分遣隊
12	N	佐藤 備凡	退職	
12	N	津川 保夫	呉	JRC特機呉事業所
13	A	益田 修	小倉	小倉駐屯地業務隊
13	A	戸田 勝秋	守山	第10後方支援連隊 本部及び本部付隊
13	A	高本 俊之	千僧	千僧駐屯地業務隊
13	A	西村 繁樹	目黒	幹部学校教官
13	A	石原 薩雄	北熊本	北熊本駐屯地業務隊
13	A	白石 克成	小平	業務学校
13	F	松生 剛	朝霞	陸自 各方面総監部
14	A	原田 敏男	山口	
14	A	清水 重周	真駒内	北部方面輸送隊 本部及び本部付隊
14	A	清水 重正	相馬原	相馬原駐屯地業務隊
14	A	齊藤 正精	退職	日本IBM(株)
14	A	赤瀬 良二	富士	富士学校
14	A	中原 勇	愛知	愛知地方連絡部
14	F	高須 好美	退職	高須電気エンジニアリング(株)
14	F	今井 岸夫	退職	自由業(経営コンサルタント)
14	N	森田 則広	御逝去	
15	A	安村 幸次	横浜	横浜防衛施設局事業部
15	A	井口 昌之	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
15	A	遠田 雅美	函館	函館駐屯地業務隊
15	A	奥野 耕三	京都	京都地方連絡部
15	A	岡 隆	朝霞	第31普通科連隊 本部及び本部管理中隊
15	A	加藤 三千夫	伊丹	中部方面総監部
15	A	花房 晃夫	北熊本	北熊本駐屯地業務隊 総務課
15	A	古川 照久	目黒	幹部学校
15	A	三嶋 利克	檜町	朝霞駐屯地東部方面調査隊
15	A	上杉 和壽	朝霞	東部方面輸送隊 本部及び本部付隊
15	A	大竹 義信	岩見沢	第12施設群 本部及び本部管理中隊
15	A	長松 敬天	日本原	第13特科隊 本部及び本部管理中隊
15	A	土居 良治	帯広	第107地区警務隊
15	A	野間 光男	退職	鹿児島県立始良病院
15	F	島田 徹	岐阜	第4高射群
15	F	福嶋 健司	新田原	第5航空団
15	N	今村 修二	呉	ひえい
15	N	山下 啓介	退職	(株)インテック 特機システム部
15	N	山崎 富雄	大湊	大湊地方総監部
15	N	中島 栄一	横須賀	自衛艦隊司令部
16	A	芦岡 広明	福岡	第4後方支援連隊 本部及び本部管理中隊
16	A	岡田 正一	姫路	姫路駐屯地業務隊
16	A	佐々木 二郎	小平	業務学校
16	A	齊藤 健治	前川原	幹候校
16	A	竹内 準一	善通寺	善通寺駐屯地業務隊
16	A	内山 晃	市ヶ谷	中央資料隊
16	A	富本 啓一	丘珠	北部方面航空隊 本部及び本部付隊
16	A	平川 真士	富士	富士学校
16	F	小笠原 猛		
16	F	八木橋 享	御逝去	
16	N	阿部 哲夫	横須賀	誘導武器教育訓練隊
16	N	福島 一夫	御逝去	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
17	A	吉川 雄二	上富良野	第117特科大隊 本部および本部中隊
17	A	荒木 正廣	日本原	日本原駐屯地業務隊
17	A	高橋 輝正	退職	NEC無線事業本部 誘導光電事業部
17	A	佐藤 吉信	十条	補給統制本部
17	A	小坂 正志	市ヶ谷	調達実施本部
17	A	小池 保治	福島	自衛隊福島地方連絡部
17	A	村田 芳次	小平	業務学校
17	A	中尾 吉孝	富士	富士学校
17	A	飯島 定雄	市ヶ谷	通信団 本部および本部付隊
17	A	富安 久芳	小倉	第40普通科連隊 本部及び本部管理中隊
17	A	福澤 賢	練馬	第1普通科連隊 本部及び本部管理中隊
17	A	鈴木 陽	伊丹	中部方面総監部
17	A	廣瀬 誠	健軍	西部方面総監部
17	F	磯野 茂樹	浜松	警空隊 第2整備群
17	F	稲見 潔	木更津	1補 整備部
17	F	永富 信吉	那覇	南混司 監察官
17	F	細田 敏夫	退職	三条機械製作所(株)
17	F	山本 剛	退職	大成ロテック(株)
17	F	松田 清明	那覇	南混司 装備部 計画課
17	F	西岡 義博	入間	3補 総務課
17	F	石渡 幹生	目黒	航空自衛隊幹部学校研究部 第2研究室
17	F	前田 慎一	静浜	11教団 団司令部 教育部
17	F	澤 博海	退職	広島県庁
17	N	久和 清幸	横須賀	運用開発隊
17	N	西嶋 正幹	退職	
17	N	塔岡 道夫	横須賀	自衛艦隊司令部
18	A	安藤 恒夫	朝霞	朝霞駐屯地業務隊
18	A	河野 基春	檜町	統合幕僚会議事務局
18	A	宮田 秀二	立川	東部方面航空隊 本部および本部付隊
18	A	工藤 重見	大宮	化学学校
18	A	紫村 敬二	高田	第5施設群 本部及び本部管理中隊
18	A	首藤 敏明	鳥松	北海道補給処
18	A	上田 正文	朝霞	東部方面総監部
18	A	千原 和人	札幌	北部方面総監部
18	A	川原 彰	東千歳	第108地区警務隊
18	A	大西 正俊	朝霞	第1施設団司令部
18	A	中島 仁文	健軍	西部方面総監部
18	A	渡辺 義幸	飯塚	第3高射特科群 本部および本部管理中隊
18	A	門野 睦廣	十条	補給統制本部
18	A	麩澤 章雄	鹿追	鹿追駐屯地業務隊
18	F	笠原 久	防大	防衛大学校空防教室
18	F	勘米良幸一	春日	西空司 装備部 計画課
18	F	長尾 齋	三沢	3空団 基地業務群
18	F	白敷 裕樹	退職	京都産業大学
18	N	岩渕 秀樹	船越	護衛艦隊司令部
18	N	近藤 清司	厚木	第51航空隊
18	N	松井 博	下総	海自 第3術科学校
18	N	平原 誠	鹿屋	第211教育航空隊
19	A	園部 武典	市ヶ谷	陸上幕僚監部 調査部調査課
19	A	横島 秋男		
19	A	屋久 俊郎	宇都宮	第12特科連隊 第1特科大隊 本部および本部管理中隊
19	A	古庄 和裕	朝霞	東部方面総監部
19	A	三星 忠正	仙台	東北方面調査隊
19	A	青柳 忍	高田	第2普通科連隊 本部及び本部管理中隊
19	A	前之園敏雄	勝田	施設学校
19	A	津留崎清宝	市ヶ谷	防衛施設庁
19	A	東 光博	退職	(株)フォーカスシステムズ 279-0026浦安市弁天2-17-12
19	A	迫田 直心	真駒内	第18普通科連隊 本部及び本部管理中隊
19	A	野村 俊朗	下志津	高射学校
19	A	廣瀬 和紀	健軍	西部方面総監部
19	F	磯 光三	十条	補本 2部 2調達課
19	F	園山 栄一	退職	
19	F	吉本 博	岐阜	第2補給処 企画課
19	F	郷田 進	浜松	教集団司 教育部 教育第1課
19	F	後藤 章	退職	トライアム・サンカクヤ
19	F	小曲 一之	小原台	防衛大学校 防衛学教室
19	F	松下 陸裕	市ヶ谷	空幕 装備部 整備課
19	F	杉山 昌安	退職	東芝マイクロエレクトロニクス(株) ASIC開発部
19	F	田中 秀明	相模原	技術研究本部 第4研究所
19	F	藤井 和弥	芦屋	13教団 整備補給群
19	N	松山 守秀	館山	第123航空隊
20	A	高岡 正明	健軍	西部方面総監部
20	A	榎 喜隆	久里浜	通信学校付

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
20	A	山形 克己	霞目	東北方面航空隊
20	A	小林 実	富士	装備開発実験隊
20	A	浅原 昭夫	明野	飛行開発実験隊
20	A	仲原 久晃	十条	補給統制本部
20	A	楠本 裕幸	朝霞	東部方面総監部
20	A	馬場崎 修	退職	星商事株 東京支社
20	A	半澤 康司	目黒	陸上自衛隊幹部学校
20	A	伏木 享	市ヶ谷	調達実施本部
20	F	岳川 清美	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局 情報本部
20	F	岸本 昌文	退職	三菱重工業株 名古屋航空宇宙システム製作所
20	F	高林 久	府中	航空総隊司令部 防衛部 防衛課
20	F	石田 裕	市ヶ谷	空幕 監理課 会計監査室
20	F	田中 和之	市ヶ谷	情報本部
20	F	南園 宏	三沢	警戒航空隊 601飛隊
20	N	木村 孝彦	目黒	防衛研究所
21	A	園田 郁夫	仙台	宮城地方連絡部
21	A	加藤 隆	鹿追	第5対戦車隊
21	A	花田 一志	仙台	東北方面総監部総務部
21	A	貴志 倫生	伊丹	会計監査隊中部方面分遣隊
21	A	桑原 幹夫	市ヶ谷	陸幕監理部法務課
21	A	湖崎 隆	市ヶ谷	陸幕防衛部防衛課
21	A	高橋 久奏	仙台	東北方面総監部監察室
21	A	大谷 昭次郎	市ヶ谷	陸幕調査部調査課
21	A	渡部 誠	富士	装備開発実験隊
21	A	浜崎 勝	駒門	第1特科連隊 第2特科大隊 本部及び本部管理中隊
21	A	野中 敏治	御逝去	
21	A	澤井 研次	札幌	北部方面総監部防衛部
21	F	黒澤 豊彦	浜松	1術校 第2教育部
21	F	朱 永武	留学生	シンガポール在住
21	F	松本 修司	市ヶ谷	空幕 施設課 建設1班
21	F	沼田 幸男	十条	補本 1部 1整備課
21	F	真田 雅章	入間	プロ管 プロ隊 プログラム隊長
21	F	杉本 弥行	十条	補本 1部 1整備課
21	F	田原 俊幸	檜町	空幕防衛部防衛課
21	F	鍋島 和史	退職	
21	F	平本 行	百里	第7航空団司令部
21	F	木山 幸保	十条	補本 計画部 補給課
21	F	廣江 勝馬	十条	補本 計画部 会計課
21	N	笹山 宏	退職	(株) 笹島板金工業
21	N	山口 次郎	厚木	航空集団司令部
21	N	村田 隆齊	目黒	幹部学校幹部高級課程学生
21	N	福岡 誠	檜町	海幕監理部総務課
22	A	永栄 文晴	市ヶ谷	陸上幕僚監部 装備部 開発課
22	A	吉岡 聖二	市ヶ谷	陸上幕僚監部 装備部 施設課
22	A	原田 有繁	札幌	北部方面総監部
22	A	財城 昭彦	旭川	第2師団司令部
22	A	松村 利宏	川内	第8施設大隊 本部及び本部管理中隊
22	A	松本 俊二	島松	北海道補給処
22	A	大本 健吾	朝霞	第101施設器材隊 本部及び本部管理中隊
22	A	鳥松 正一	八戸	第8高射特科群
22	A	野口 利保	富士	富士学校
22	F	永瀧 盛重	市ヶ谷	空幕 整備課 整備第2班
22	F	横手 裕明	檜町	統合幕僚会議事務局
22	F	酒井 伸	三沢	第3航空団
22	F	小関 信安	小牧	5術校 第1教育部
22	F	堂込 勝也	市ヶ谷	空幕 整備課 整備基準班
22	F	木戸 文夫	市ヶ谷	空幕 調査課 情報室
22	F	野村 勝廣	十条	補本 計画部 企画課
22	N	延近 保生	十条	補給本部
22	N	高塚 裕幸	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局
22	N	中谷 茂	目黒	海上自衛隊幹部学校
22	N	塚田 真司	横須賀	自衛艦隊司令部
22	N	坊垣内 広明		
22	A	浦川 平次	富士	富士教導団本部及び本部付隊
22	A	奥野 和男	仙台	東北方面総監部
22	A	丸山 和宏	札幌	北部方面総監部
22	A	岩田 清文	市ヶ谷	陸上幕僚監部 防衛部運用課
22	A	三木 元秀	伊丹	第104通信運用大隊 本部及び本部管理中隊
22	A	若杉 治徳	札幌	北部方面総監部
22	A	谷崎 敏弘	滝川	第10普通科連隊本部及び本部管理中隊
22	A	日高 政広	相馬原	第12師団司令部
22	A	廣塚 雅史	目黒	幹部学校
22	F	シンナロン	留学生	タイ王国在住

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
23	F	宮田 義章	芦屋	3 術校 第2 教育部
23	F	松尾 茂	松島	第4 0 2 基地防空隊
23	F	川添 一正	退職	
23	F	池邊 正	輪島	中警団 第2 3 警戒群
23	F	馬谷 誠二	退職	KS1 (株)
23	N	井口 義定	岩国	第3 1 整備補給隊
23	N	井之久 保雄三	市ヶ谷	海上幕僚監部防衛部運用課
23	N	山下 啓治	目黒	海上自衛隊幹部学校研究部員
23	N	四元 和生	呉	呉基地業務隊補充部
23	N	牧野 謙一	市ヶ谷	海上幕僚監部装備部装備課
23	N	畑中 孝行	横須賀	第1 護衛隊群司令部
24	A	稲葉 貞志	神町	第6 飛行隊
24	A	芹川 慎介	市ヶ谷	中央調査隊
24	A	金田 辰美	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
24	A	高澤 慎司	退職	㈱東京アイシーエス
24	A	山川 純次	目黒	幹部学校
24	A	山田 雅巳	仙台	東北方面総監部 防衛部 防衛課
24	A	常田 義則		日立コノユウター機器(株)
24	A	西津 護	伊丹	中部方面総監部
24	A	浅野 博義	富士	富士学校
24	A	太田 尚志	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
24	A	大久保和美	富士	富士学校
24	A	中村 健蔵	旭川	第2 特科連隊 第3 特科大隊 本部及び本部管理中隊
24	A	堀之内 誠	東立川	中央地理隊 本部及び本部管理中隊
24	A	濁 靖隆	土浦	武器学校
24	F	佐藤 秀幸	目黒	航空自衛隊 幹部学校
24	F	山田 眞一	春日	西部航空方面隊司令部 防衛部 防衛課
24	F	出口 潔	市ヶ谷	空幕 会計課 經理班
24	F	清水 尚志	入間	3 補 調達部 原計課
24	F	中館 利光	入間	4 補 調達部 輸入課
24	F	藤城 希恭	府中	航空総隊司令部 防衛部 運用課
24	N	佐伯 泰啓	佐世保 1	ちょうかい
24	N	山本 浩	退職	(和山本産業
24	N	小川 勝志	呉	あきしお
24	N	松田 俊宏	退職	
24	N	中村 早速	舞鶴	みょうこう
24	N	長谷川 隆	退職	(㈱ムーブ
25	A	岡元 正一	富士	富士学校
25	A	佐伯 義次	檜町	陸上幕僚監部 教育訓練部訓練課
25	A	若本 順二	宇治	関西地区補給処
25	A	重石 義幸	目黒	幹部学校
25	A	小菅 康雄	武山	少年工科学校 第1 教育部
25	A	小野寺 靖	檜町	陸上幕僚監部 教育訓練部訓練課
25	A	石川 哲也	朝霞	東部方面総監部 法務課
25	A	大内 元	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
25	A	田草川茂人	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
25	F	安芸 一	檜町	統合幕僚会議事務局 第1 幕僚室 企画班
25	F	坂本 卓己	目黒	幹部学校
25	F	藤吉 恵一	十条	補本 計画部 企画部
25	F	尾崎 信朗	那覇	8 3 空 整備群 装備隊
25	N	河村 正雄	市ヶ谷	海上幕僚監部 人事教育部 補任課
25	N	高島 修	市ヶ谷	海上幕僚監部 人事教育部 教育課 教範班
25	N	杉原 耕二	市ヶ谷	海上幕僚監部 調査部気付け
25	N	内山 哲也	呉	電子情報支援隊
25	N	籠谷 貴年	呉	潜水艦教育訓練隊
26	A	河原 敏和	退職	第1 地所(株)
26	A	吉田 英紀	市ヶ谷	陸上幕僚監部 監察官
26	A	吉田 吉宏	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
26	A	及川 幸夫	富士	富士学校
26	A	金子 寿弥	善通寺	第3 1 0 武器野整備中隊
26	A	坂野 佳彦	防大	防衛大学校陸防教室
26	A	山下 清隆	市ヶ谷	陸上幕僚監部 調査部調査課
26	A	小野 長門	退職	熊本工業大学
26	A	松田 正行	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
26	A	石山 暁	相馬原	第1 2 師団司令部
26	A	石川 毅	小平	調査学校
26	A	滝沢 由則	退職	三菱スペースソフトウェア(株)
26	A	谷 俊彦	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
26	A	中村 明弘	退職	横浜市緑区長津田3-27-14-102
26	A	内海 浩	市ヶ谷	陸上幕僚監部 装備部航空機課
26	A	友部 隆	富士	富士学校
26	F	星川 敦	松島	4 空団 整備群 修理隊
26	F	池島 暢也	茨城	茨城地方連絡部

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
26	F	福島 睦	市ヶ谷	空幕 運用第2班
26	F	米子 誠二	市ヶ谷	空幕 調達課 調達課計画
26	F	澤木 優輔	退職	未来産業団
26	N	佐藤 寿紀	市ヶ谷	海上幕僚監部 防衛部 運用課
26	N	市坪 秀明	檜町	海上幕僚監部 防衛部 運用課
26	N	上野 真一郎	厚木	厚木プログラム業務分遣隊
26	N	水野 伸彦	八戸	第2航空隊
26	N	杉山 義和	江田島	海上自衛隊幹部候補生学校
26	N	相良 達也	下総	第203教育航空隊
26	N	道満 誠一	市ヶ谷	海上幕僚監部 人事教育部 補任課
26	N	平野 勝	舞鶴	舞鶴地方総監部
27	A	角南 良治	市ヶ谷	陸幕防衛部防衛課
27	A	行事 正	八戸	第5高射特科群 第319高射中隊
27	A	山之上 哲郎	市ヶ谷	陸幕人事部人計課
27	A	緒方 慎浩	御逃去	
27	A	川村 治彦	退職	小野田自然塾
27	A	大居 一之	三宿	技術研究本部
27	A	大場 基美雄	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
27	A	大石 隆一	小平	調査学校
27	A	長合 友造	旭川	第2施設大隊 本部及び本部管理中隊
27	A	津田 浩司	健軍	第5地对艦ミサイル連隊 本部及び本部管理中隊
27	A	馬場 政和	退職	不明
27	A	舞原 博己	市ヶ谷	陸上幕僚監部 装備部通信電子課
27	A	米山 多佳志	防大	防衛大学校陸防教室
27	A	濱田 秀	弘前	大39普通科連隊 本部及び本部管理中隊
27	F	兼古 修	新田原	第5空団飛行群202飛行隊
27	F	元木 啓嗣	市ヶ谷	空幕 教育課 技科教育班
27	F	甲斐 新太	築城	8空団 整備群 修理隊
27	F	高野 宗治	小牧	1輪空 整備群 修理隊 修理隊長
27	F	小川 昌宏	舞鶴	はるな
27	F	西山 利昭	退職	水沢祝務会計事務所
27	F	蔵田 衛人	退職	日商岩井
27	F	沢村 徹	退職	リアル
27	F	堀田 隆治	浜松	第1空団整備補給群補給隊
27	N	益田 徹也	市ヶ谷	海上自衛隊 東京業務隊
27	N	五領 隆男	呉	呉地方総監部管理部人事課
27	N	交口 俊介	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局
27	N	山田 洋士	厚木	第51航空隊
27	N	足立 謹聡	入間	航空救難団 団司令部 防衛部
27	N	中里 巧	退職	中島機械(株)
28	A	永井 大介	退職	日立造船システム
28	A	越水 達哉	退職	
28	A	岡澤 武彦	富士	富士学校
28	A	吉田 正人	退職	大倉商事 メカトロニクス部
28	A	畦地 勇	退職	在米日本大使館
28	A	古賀 敏明	富士	第13特科隊本部
28	A	幸野 英明	市ヶ谷	陸幕教訓部教育課
28	A	三好 邦夫	富士	装備開発実験隊
28	A	足立 哲彦	市ヶ谷	統合幕僚会議
28	A	鶴見 耕市	退職	東電設計(株)
28	A	湯浅 悟郎	市ヶ谷	陸上幕僚監部 防衛部防衛課
28	A	藤原 修	市ヶ谷	陸幕装備部開発課
28	A	日高 信行	北富士	部隊訓練評価隊
28	A	北原 秀章	福岡	第4偵察隊
28	A	矢野 光宏	市ヶ谷	陸幕教訓部訓練課
28	F	今井 邦夫	三沢	3空団 整備群 装備隊
28	F	山田 顕嗣	檜町	空幕援護業務課計画班
28	F	神山 隆	退職	キャンノン
28	F	白水 裕人	檜町	空幕 運用調査官
28	F	米田 健二	退職	不明
28	F	堀米 浩章	千歳	第2空団司令部監理部
28	F	末廣 勝己	岐阜	飛行開発実験団飛実群飛行隊
28	N	河津 稔	厚木	第4航空群司令部
28	N	上野 清昭	市ヶ谷	海上幕僚監部 防衛部防衛課
28	N	西小路 謙	退職	航空大学校
28	N	竹本 直忠	市ヶ谷	海上幕僚監部 人事教育部 厚生課
28	N	中川 勝也	退職	愛知石畳支部道場
28	N	内田 公明	舞鶴	舞鶴造修補給所
28	N	平島 一	退職	日本電脳相談(株)
28	N	鈴木 巧	退職	フクダ福田電子
29	A	松岡 恭一	退職	日立製作所(株)
29	A	駒井 紀美彦	前川原	陸上自衛隊幹部候補生学校教育部第3教育科
29	A	古川 靖人	練馬	第1後方支援連隊武器大隊第1中隊長

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
25	A	古田 清悟	福岡	第4師団司令部第3部訓練班長
25	A	甲斐 正人	市ヶ谷	情報本部
25	A	坂井 辰也	退職	
25	A	新保 博徳	霞ヶ浦	関東補給処
25	A	水上 義仁	久里浜	通信学校
25	A	青柳 光		山梨ソフトウェア(株)
25	A	川上 和美	退職	不明
25	A	浅川 玉樹	退職	日産自動車株
29	A	大川 浩史	富士	富士学校
29	A	託摩 安廣	退職	たぐま歯科医院
29	A	谷 拓弥	市ヶ谷	陸幕監部教育訓練部教育課
29	A	中村 浩之	市ヶ谷	陸上幕僚監部 人事部援護業務課
29	A	津田 芳明	松戸	第2高射特科群 第302高射搬送通信中隊長
29	A	立林 剛	市ヶ谷	陸幕監部教育訓練部教育課
29	A	鈴木総一郎	御逝去	
29	A	蛭原 良雄	市ヶ谷	陸幕整備部武器化学課
29	F	熊田原 修	市ヶ谷	空幕 整備課 調整班
29	F	高松 実	市ヶ谷	空幕 整備課 整備第1班
29	F	西村 政恭	三沢	6高群 指揮所運用隊
29	N	宮田 敏邦	横須賀	うみざり
29	N	佐竹 右幾	退職	
29	N	山崎 浩一	市ヶ谷	海上幕僚監部 監理部総務課
29	N	小屋敷 秀彦	退職	
29	N	植木 均	市ヶ谷	海上幕僚監部 防衛部通信課
30	A	笠島 広文	退職	鯖江市役所市長室
30	A	岩熊 真司	市ヶ谷	陸幕整備部開発課
30	A	亀山 淳	市ヶ谷	陸上幕僚監部 運用課
30	A	宮本 善弘	福岡	第4師団司令部
30	A	魚住 晴康	立川	東方ヘリ隊 第2飛行隊
30	A	魚舩 治晴		メリルリンチ証券(株)
30	A	山口 芳正	練馬	第1師団司令部
30	A	松岡 恭一	退職	日立製作所(株)
30	A	菅野 俊夫	市ヶ谷	陸上幕僚監部 整備部開発課
30	A	西 良典	朝霞	31普通連1中長
30	A	船津 達男	退職	嘉徳東高校
30	A	池永 博和	久里浜	通信学校
30	A	中井 馨	退職	日本アーム工業
30	A	中森 雅美	市ヶ谷	防衛庁内部部局
30	A	中川 洋行	霞ヶ浦	航空学校霞ヶ浦分校
30	A	中村 大助	那覇	第1混成団本部及び本部付隊
30	A	土屋 甲吉	目黒	幹部学校
30	A	福田 洋司	市ヶ谷	陸上幕僚監部 人事部補佐課
30	A	矢納 裕二	市ヶ谷	陸上幕僚監部 監理部会計課
30	A	林 宏幸	札幌	会計監査隊 北部方面派遣隊
30	F	吉田 憲司	市ヶ谷	空幕 施設課 通信建設班
30	F	橋爪 猛	市ヶ谷	空幕 補給課 補給第3班
30	F	栗田 尚幸	御逝去	
30	F	後藤 豊	退職	上山病院
30	F	高橋 親敏	新田原	5空団 基 群 管理隊
30	F	黒田 健一	退職	フランス在住
30	F	西本 彰雄	市ヶ谷	統幕事務局
30	N	時久 寛司	市ヶ谷	海上幕僚監部人事教育部援護業務課
30	N	湯浅 秀樹	横須賀	はるさめ
30	N	百崎 邦彦	小月	小月教育航空隊
30	N	鈴木 達雄	退職	三菱重工
31	A	亀山 慎二	東千歳	第7師団司令部第3部 訓練班
31	A	吉武 辰明	朝霞	輸送学校
31	A	久富 博幸	退職	新日本証券(株) 債権部商品課
31	A	久保 敏浩	富士	富士学校機甲科部
31	A	橋本 哲彰	真駒内	第11師団司令部 第3部 防衛班
31	A	佐野 光	明野	航空学校
31	A	松井 健一	富士	装備開発実験隊
31	A	石丸 威司	市ヶ谷	陸上幕僚監部 防衛部研究課
31	A	大島龍一郎	退職	松下興産(株)
31	A	辰巳 竜悟	退職	TUVラインランド技研(株) システム認証部
31	A	池ノ本 八郎	土浦	武器学校
31	A	中川 博英	大宮	化学学校
31	A	椎野 健治	立川	東部方面隊航空隊
31	A	辻 政幸	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	A	田口 直志	島松	北部方面武器隊本部
31	A	藤岡登志樹	多賀城	第38普通科連隊 第2中隊
31	F	阿部 博文	目黒	幹部学校
31	F	近藤 良彦	春日	西空司 防衛部 運用課

期別	要員	氏名	基地等	所属部隊等
31	F	洪沢 寛	立川	航空安全管理隊 資料部
31	F	小南 良人	御逝去	
31	F	北村 克晶	府中	総隊司 防衛部 通電課
31	F	野沢 隆一	入間	中空司 防衛部 防衛課
31	N	岡田 岳司	市ヶ谷	海上自衛隊東京業務隊
31	N	蝦名 伸治	舞鶴	はまゆき
31	N	久保田 修一	江田島	海上自衛隊第1術科学校
31	N	甲斐 義博	京都	京都地方連絡部
31	N	大井 一史	小松島	小松島航空隊
31	N	迫田 浩文	市ヶ谷	中央通信隊群司令部
32	A	境 孝明	滝川	第10普通科連隊 第2中隊
32	A	更工 雅彦	退職	奈良県警察
32	A	山地 伸一	楡町	外務省 オーストラリア大使館
32	A	市来 道啓	退職	秋貞逸郎税理士事務所
32	A	小原 真二	退職	エアニーッポン
32	A	小田 益男	楡町	統幕5室
32	A	上山 聡	小平	調査学校
32	A	神保 俊昭	退職	
32	A	川崎 誠二	前川原	陸上自衛隊幹部候補生学校
32	A	大塚 裕治	那覇	沖縄地方連絡部
32	A	大塚 和也	白川	第6高射特科群 第323高射中隊
32	A	竹内 利治	八尾	中部方面航空隊本部及び本部付隊防衛部航空班
32	A	中村 裕亮	都城	第43普通科中隊 第2中隊
32	A	田口 芳郎	退職	㈱ワールド ジオスポーツ部
32	A	福元 昌二	旭川	第2特科連隊第2大隊
32	A	福重 毅高	大阪	大阪地方連絡部
32	A	平田 雄嗣	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
32	F	高橋 秀雄	市ヶ谷	空幕 防衛課 研究班
32	F	山口 直人	百里	航空救難団 飛行群 百里救難隊
32	F	植村 茂己	市ヶ谷	空幕 副官
32	F	渡部 誠	岐阜	飛行開発実験団 飛実群 飛行隊
32	F	鈴木 憲	浜松	2術校 教務課
32	N	河上 康博	楡町	海上自衛隊東京業務隊
32	N	後藤 幸英	退職	㈱ヒューレットパッカーード インダストリーシステム事業本部
32	N	松尾 研志	退職	
32	N	澤本 武朝	退職	
33	A	柿野 忠嗣	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
33	A	久永 智	退職	アメリカンファミリー
33	A	近藤 哲也	東千歳	第7特科連隊第3特科大隊第5射撃中隊
33	A	郡山 直樹	真駒内	第11特科連隊
33	A	細野 容司	前川原	幹部候補生学校
33	A	山本 真也	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
33	A	山本 裕一	勝田	施設学校
33	A	川崎 英幸	退職	
33	A	大津 勝利	目黒	滋賀地連・募集課
33	A	谷口 喜一郎		
33	A	池田 誠喜	土浦	武器学校
33	A	中塚 修一	東千歳	第7師団司令部第3部
33	A	椎葉 博正	退職	芙蓉総ロリース株 新宿支店
33	A	半澤 新吾	退職	
33	A	富樫 勇一	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
33	F	岡本 秀文	岐阜	2補 整備部 整技課
33	F	御厨 広之	府中	総隊司 防衛部 演計課
33	F	荒木 俊一	目黒	航空自衛隊 幹部学校
33	F	高草木 浩寿	松島	第4航空団飛行群
33	F	新崎 秀樹	三沢	警戒航空隊 601飛行隊
33	F	増田 友晴	市ヶ谷	内部部局
33	F	田中 勝也	退職	(株)兼松
33	N	鶴澤 直樹	退職	
33	N	関口 雄輝		
33	N	高橋 真一	退職	
33	N	西窪 純	退職	
33	N	町島 敏幸	岩国	第8航空隊
33	N	渡邊 浩	佐世保	さわかせ
34	A	篠原 康一	霞ヶ浦	関東補給処
34	A	松永 康則	富士	富士学校
34	A	石黒 太美英	木更津	第1ヘリコプター隊 第2飛行隊
34	A	竹内 博忠	楡町	技術研究本部
34	A	田丸 正勝	富士	富士学校
34	A	田中 一要	富士	装備開発実験隊
34	A	筒井 鋭達	北熊本	第8師団司令部
34	A	能井 智治	朝霞	輸送学校
34	A	永室 正一郎	退職	東陶機器 (株) 商品企画本部第2課



期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
34	A	平林 理	真駒内	第11戦車大隊第2中隊
34	F	羽田 充伸	奈良	幹候校 学生隊 1中隊
34	F	河田 成治		
34	F	小笠原卓人	目黒	幹部学校
34	F	田代 秀也	浜松	教集団司 総務部 厚生課
34	N	丹羽 満良	那覇	第5航空隊
34	N	富山 修	佐世保	あさかぜ
35	A	安藤 和幸	霞目	東北方面ヘリ隊第2飛行隊
35	A	戒田 重雄	目黒	幹部学校
35	A	坂本 雄一	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
35	A	瀬戸口 淳	八戸	第5高射特科群本部及び本部管理中隊
35	A	川嶋 和之	北宇都宮	第12飛行隊
35	A	袖之原公郎	帯広	第1対戦車ヘリコプター隊本部及び本部付隊
35	A	中村健太郎	習志野	第1空挺団本部及び本部中隊
35	A	中本 尚明	目黒	幹部学校
35	A	馬淵 貴史	福岡	第329施設中隊
35	A	福本 博氏	東千歳	第11普通科連隊第4中隊
35	A	木場 元大	伊丹	第36普通科連隊本部及び本部管理中隊
35	F	中澤 武志	小牧	航空救難団航空救難隊
35	F	堀 修二郎	百里	第204飛行隊
35	N	加藤 寛和	横須賀	プログラム業務隊
35	N	三浦 則文	佐世保	ちょうかい
35	N	森泉 周	館山	第121航空隊
35	N	中原 俊行	横須賀	たちかぜ
36	A	井上 勝	防大	理工学研究科 研修生
36	A	榎窪 正和	青野原	第333高射中隊
36	A	岩村 伝法		退職
36	A	山田 武彦	久里浜	通信学校
36	A	前田 尚男	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
36	A	倉田 一	古河	第1施設大隊 本部及び本部管理中隊
36	A	村上 至	朝霞	輸送学校
36	A	大北 知史	武山	少年工科学校
36	A	中村 英昭	習志野	空挺教育隊
36	A	藤岡 史生	富士	富士学校
36	A	日高 邦登	北熊本	第8特科連隊第5特科大隊第9射撃中隊
36	A	福島 浩二	市ヶ谷	情報本部
36	A	矢口 鑑	駒門	第1高射特科大隊本部及び本部管理中隊
36	F	綿森 昭示	春日	西空司 防衛部 運用課
36	N	鳥越 要	江田島	海上自衛隊第1術科学校
37	A	河合 寿士	土浦	武器教導隊第1中隊
37	A	吉田 文二	南恵庭	第73戦車連隊 第1中隊
37	A	古田 和之	旭川	第2師団司令部第4部
37	A	山下 豊	満川	第10普通科連隊第2中隊
37	A	児玉 洋	金沢	第14普通科連隊 第3中隊
37	A	森安 宏徳	市ヶ谷	第32普通科連隊 本部及び本部管理中隊
37	A	大山 剛	北千歳	第302高射中隊
37	A	富原 大治	出雲	第13偵察隊
37	A	平瀬 義	三宿	技術研究本部
37	F	久重路 剛	入間	中空司 装備部 施設課
37	F	中居 景	千歳	第2航空団飛行群203飛行隊
37	F	塚原 敏夫	入間	第4補給処資計部資計課
37	F	矢坂 勝良	入間	飛行点検隊飛行隊
37	N	岩本 正行	厚木	厚木プログラム業務分遣隊
37	N	高取 哲郎	鹿屋	第1航空隊
37	N	石原 寿英		退職
37	N	木下 治信	舞鶴	舞鶴造修補給処
37	N	鈴木 隆弘	余市	余市防備隊
38	A	奇藤 浩	神町	第20普通科連隊第1中隊
38	A	宮下 克聡	富士	富士学校
38	A	高岡 徳人	伊丹	第36普通科連隊本部及び本部管理中隊
38	A	黒子 智彰	木更津	東部方面管制気象隊 第3派遣隊
38	A	水野 亮二	霞ヶ浦	霞ヶ浦駐屯地業務隊
38	A	尼子 将之	勝田	施設教導隊第3施設中隊
38	F	向井 洋史	岐阜	2補 整備部 整技課
38	N	高橋 俊隆	館山	第101航空隊
38	N	佐藤 滝大	岩国	第8航空隊飛行隊
38	N	城戸 利彰	岩国	第111航空隊
38	N	中村 格	横須賀	プログラム業務隊本部
38	N	平井 穰治	御逝去	
39	A	井上 嘉史	防大	総合安全保障研究科
39	A	井上 裕策	弘前	第39普通科連隊 本部及び本部管理中隊
39	A	遠藤 英隆	防大	総合安全保障研究科
39	A	三好 英治	立川	東部方面ヘリ隊

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
39	A	小澤 謙雄	岩手	第9特科連隊第2特科大隊 本部及び本部管理中隊
39	A	杉原 正典	東千歳	第11普通科連隊 第1中隊
39	A	西田 美嗣	旭川	第2後方支援連隊衛生隊
39	A	達下 裕教	新田原	第30普通科連隊
39	A	中村 多郎	霞ヶ浦	関東補給処
39	A	長濱 誠	退職	
39	A	野本 肇	北千歳	第1地对艦ミサイル連隊第1射撃中隊
39	F	久保 敦	市ヶ谷	調達実施本部
39	F	前床 泰彦	三沢	第3航空団 第3飛行隊
39	F	大塚 晋介	知念	5高群 第18高射隊
39	N	松崎 徹	防大	防大理工学研究科学生
39	N	大松 清生	横須賀	掃海業務支援隊
39	N	鳥越 涉	横須賀	プログラム業務隊本部
40	A	上野 洋介	防大	防大理工学研究科学生
40	A	永友 恒知	防大	防大理工学研究科学生
40	A	朽木 誠	帯広	第4普通科連隊 第1中隊
40	A	熊本 巖	函館	第28普通科連隊本部及び本部管理中隊
40	A	高田 善行	古河	第1施設大隊 第3中隊
40	A	奈良 一志	海田市	第13通信大隊 第2中隊
40	F	岩本 正臣	浜松	2術校 第1教育部
40	F	山田 賢治	人間	中部航空警戒管制団 中防群 防管隊
40	F	守井 孝志	千歳	2空団 飛行群 203飛隊
40	F	小坂 淳	美保	第3輸送航空隊
41	A	阿達 文明	函館	第28普通科連隊 第1中隊
41	A	吉村 裕樹	岩手	第9特科連隊 第2特科大隊 第4射撃中隊
41	A	建部 広喜	滝ヶ原	第110施設大隊 第2中隊
41	A	後藤 仁志	守山	第35普通科連隊 第1中隊
41	A	佐久間 博	神町	第20普通科連隊 第1中隊
41	A	小段 雄三	遠軽	第25普通科連隊 第1中隊
41	A	小林 貴	丘珠	第11飛行隊
41	A	石井 伸幸	高田	第2普通科連隊 第2中隊
41	A	川崎 英輔	富士	特科教導隊 第1射撃中隊
41	A	曾我 辺信久	北熊本	第8高射特科大隊 第2高射中隊
41	A	中江 宏彰	勝田	施設教導隊 水際地雷中隊
41	A	島ノ江 英毅	東千歳	第7後方支援連隊 補給隊
41	A	片上 裕文	明野	第10飛行隊
41	A	綿貫 俊一	目達原	第4飛行隊
41	F	レイケ ハンデス	留学生	フィリピン
41	F	三宅 英明	百里	7空団 飛行群 204飛隊
41	F	松下 尚之	防大	防大理工学研究科学生
41	F	和崎 拓己	防大	防大理工学研究科学生
41	N	大川 洋史	退職	
42	A	足立 泰範	松本	第13普通科連隊
42	A	井田 輝彦	久留米	第4特科連隊
42	A	葛西 成彦	青森	第5普通科連隊
42	A	古賀 信之	千僧	第3後方支援連隊 武器大隊
42	A	清水 優	真駒内	第11後方支援連隊
42	A	清水 辺 大	退職	退職：岩手
42	A	永島 透	日本原	第13特科連隊
42	N	尾崎 公彦	江田島	海幹校
42	N	土本 邦彦	江田島	海幹校
43	A	梅原 航	霞目	東北方面航空隊
43	A	作田 雄一	御遺去	
43	A	関 大吾	健軍	西部方面会計隊
43	A	徳永 亘	宇都宮	第4施設群
43	A	廣瀬 繁	北熊本	第42普通科連隊 (警務)
43	A	藤本 祐介		第3特科連隊
43	A	古谷 尚久	国分	第12普通科連隊
43	A	松口 俊三	伊丹	第36普通科連隊
43	A	与藤 公彦	真駒内	第11特科連隊
43	F	春日 英夫	浜松	1空団 基群 管理隊
43	N	荒柴 拓也	舞鶴	みょうこう
43	N	江畑 泰孝	佐世保	やまぎり
43	N	森脇 竜二	横須賀	はたかぜ
44	A	渡邊 俊明	川内	第8施設大隊
44	A	増山 哲治	玖珠	第8戦車大隊
44	A	八尋 幸一	前川原	陸幹候校
44	A	遠藤 由紀子	東千歳	第7後方支援連隊
44	F	伊藤 恒和	那覇	南西航空警戒管制隊
44	F	若林 友和	那覇	第83航空隊
44	N	西尾 実	海幹候校	江田島